

みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティ レポート 2022

～持続可能な社会のための活動報告書～



みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの

わたしたちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します



「みやぎ生協・コープふくしま サステナビリティ・レポート」 発行にあたって

今年のみやぎ生協 40 周年・コープふくしま 90 周年の節目の年にあたります。それぞれの生協は創立以来、地域住民のコミュニティの中核として多数の市民を代表する組織となることを目指してきました。2019 年 3 月には組織合同し、これまで築いてきた伝統を守り育てるとともに、新しいことにも挑戦し、さらに大きな範囲でより良き地域社会を創るために活動しています。

生協が掲げる「協同」は、市場経済で強調される「競争」がもたらす諸問題を解決する考え方です。弱肉強食の世の中ではなく、人が互いの人間性を尊重し合い、助け合うことで、「誰一人取り残さない」世の中を目指すことにつながります。これは 2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)」の基本理念と一致します。

現在、私たちは地球的規模で生じている気候変動など環境問題や飢餓、貧困など人の生存を脅かす諸問題に直面しています。また、2019 年末から人類社会を脅かしている新型コロナウイルス感染症拡大の下で、社会的格差など現代社会の諸問題が浮き彫りになりました。それらも含め、人類が解決すべき諸課題に対し、SDGs は具体的な指標を定め、社会全体が取り組むことを求めています。それゆえ、社会の一員として私たち生協もどのように貢献するかが問われています。

このサステナビリティ・レポートは、みやぎ生協・コープふくしまの事業・活動と SDGs の 17 目標の関係を、メンバー（組合員）、お取引先様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、この間積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業をはじめとした環境活動、開始から 50 年を経て、2030 年までに新たな高みを目指す「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」、生活相談・貸付事業、コープフードバンクなど様々な事業・活動を掲載しています。また、コロナ禍でメンバー（組合員）の生活を支えるために奮闘した姿も見ることが出来ますので、是非ご一読いただければ幸いです。

みやぎ生活協同組合
理事長

冬木 勝仁



Contents 目次

1 みやぎ生協40周年について

みやぎ生協40周年を迎えて……………	5
一人ひとりの声でつくる2032ビジョン・プロジェクト…	7

2 みんなでつくる豊かな暮らし

食品の安全安心……………	11
生産者と消費者をつなぐ……………	13
東北の食と産業を伝える古今東北……………	17
地域コミュニティと学びの場の提供……………	19

3 安心してらせる地域づくりのために

買い物にも安心を……………	21
多様な買い物のかたち……………	22
社会福祉の向上……………	23
セーフティネットとしての役割……………	24
自治体・民間団体との連携……………	25

4 公正で人にやさしい組織づくりのために

働きやすさとダイバーシティ……………	27
誇りと展望が持てる風土づくり……………	28

5 地球とエネルギーの未来のために

循環型社会の構築～3R～……………	29
2030年目標「CO ₂ 排出量 65%削減」……………	30
再生可能エネルギーの普及拡大……………	31
メンバー（組合員）と進める環境活動……………	33

6 平和な社会の実現を目指して

平和な国際社会に向けて……………	34
------------------	----

7 ガバナンスと概況

経営体制と意思決定……………	35
みやぎ生協とコープふくしまの組織合同、 コープ東北サンネット事業連合との関係……………	36
内部統制……………	37
組織概況……………	38

みやぎ生協・コープふくしまのステークホルダー（生協と関わりのある個人・団体）

メンバー（組合員）を含む消費者、職員、取引先・めぐみ野生産者、地域社会（自治体、団体、他生協）、地球環境（未来の人々）

掲載範囲

- 対象期間 2021年3月21日～2022年3月20日（特別記述がない場合）
- 対象範囲 みやぎ生協・コープふくしま、コープ東北サンネット事業連合とその子会社・関連団体
本紙でご紹介する取り組みの該当範囲を示すため、見出しの横に以下のようなアイコンを記載します。



……………みやぎ生協



……………コープふくしま



……………コープ東北

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



あらゆる場所のあらゆる貧困をなくそう



誰もが栄養のある食べ物を手に入れられるようにし、持続可能な農業を応援しよう



誰もが健康的で幸せな生活を送れるようにしよう



誰もがきちんと教育を受けられ、大人も学ぶ機会を持てるようにしよう



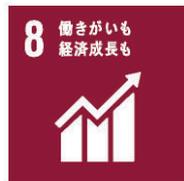
男女平等を実現し、女性が活躍できる機会を増やそう



誰もが安全な水ときれいなトイレを利用できるようにしよう



誰もが安全で持続可能なエネルギーを利用できるようにしよう



持続可能な経済成長を進め、誰もがやりがいを感じられる仕事を持つようにしよう



産業発展のための強いインフラを整え、新しい技術を開発しよう



あらゆる場所の不平等をなくそう



安全で安心して暮らし続けられる街づくりを進めよう



商品を作る人も使う人も、地球と人にやさしい行動をとろう



気候変動や異常気象に対して、対策を考え実行しよう



持続可能な漁業や開発で、海の豊かさを守ろう



森林や里山を守り、生態系と生物多様性も守ろう



平和な社会を実現し、誰もが公平な司法にアクセスできるような制度を整えよう



あらゆる立場の人、団体が協力し合い、これらの目標を達成しよう



みやぎ生協・コープふくしまの理念、事業、運動は、SDGsと多くの部分で重なり合っています。



コープSDGs 行動宣言

私たちは、2018年に日本生協連で採択された「コープSDGs 行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりにこれまで以上に取り組みます。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



ジェンダー平等 (男女平等) と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいをもち働き続けられる生協づくりを進めます。



健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク、フードドライブなどの取り組みを進めます。



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地域資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エンカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年日本生協連総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs 行動宣言」としてまとめました。私たちは、以上7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。



みやぎ生協 40周年を迎えて

みなさんと歩んだ40年。これからも一緒に

1982年の大合併

みやぎ生協は1982年に設立しています。1952年創立の宮城県学校生協、1970年創立の宮城県民生協が合併して誕生したのがみやぎ生協です。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。

時代背景としては、工業化の進展による高度経済成長を経て安定経済成長に差し掛かった時期、その後バブル経済に沸く手前の時期でした。内外で反核・平和の世論が急速に拡大し、生活水準は向上しつつも社会不安や環境問題が顕在化し始めていました。

地域社会をつなぐ生協へ

創立以来、地域住民のコミュニティの中核として、宮城県内における多数派組織の形成を目指してきました。当初の組合員数約14万人から、宮城県内においては76.2万人、世帯当たり加入率は74.9%と全国でもトップの加入率を誇る組織となりました。そして2019年3月21日より、コープふくしま、福島県南生協と組織合同し、新たなステージへと踏み出しています。

専務理事
大越健治



1982年 宮城県民生協と宮城県学校生協の合併契約書調印式

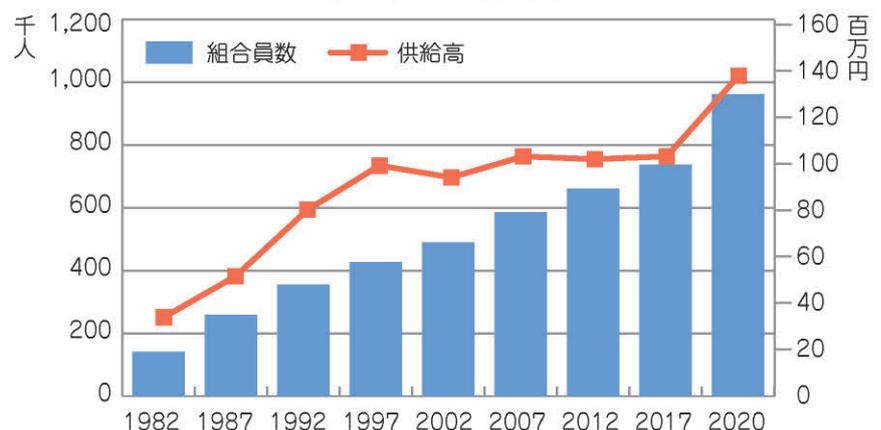


組織合同後初の総代会



初夏のこ〜ぱのつどい(南光台店)

供給高・組合員数の推移



困難の中でこそ 地域生協としての使命を

未曾有の災害となった東日本大震災を乗り越えた矢先、新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）が世界中を席捲しました。社会が大きな不安と混乱に陥っています。そのような中で「つながり」「相互扶助（助け合い）」を理念とする協同組合の役割・存在意義は益々重要性を高めています。

協同というのは人と人が互いにその人間性を尊重しあって、心を合わせて助け合って活動すること。競争ではなく協同の理念で多くの人間の交わりを作り出していくこと。誰ひとり取り残さない社会を生協の活動を通してつくりだしていきたいと願っています。



黒松店内の様子



せいきょう便(亘理店)



東日本大震災の津波で被災した関上店



東日本大震災で被害を受けた保原店



震災後の物資搬入(気仙沼センター)

これからも地域社会とともに

生活のライフラインの1つとして、事業活動を継続し必要な生活用品を組合員に提供し続けることの大切さ・使命を改めて自覚しました。また単なる経済的活動を担う存在だけではなく、地域や特定の人を抱える問題の解決を図るという社会的役割を

担い、社会課題解決に取り組む組織として、地域に貢献していくことが求められています。

みやぎ生協の「めざすもの」の実現に向けて、メンバー（組合員）の皆さんとともに、1歩1歩歩みを進めてまいりたいと思います。



フードドライブの活動(瀬上店)



親子クラブ(いずみ店)

みやぎ生協のめざすもの

私たちは、協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、
平和で持続可能な社会を実現します

一人ひとりの声でつくる 2032ビジョン・プロジェクト

節目を迎える今、みやぎ生協・コープふくしまの現状を評価し、「みやぎ生協・コープふくしまの10年後の姿」を描く未来プロジェクトが動いています。



プロジェクトの構成

様々な部署から選ばれたプロジェクト・メンバー 22人は、月1回の全体会を基本とし、部署横断的な3つの“グループ”と、分野ごとの9つの“チーム”という2つの活動でビジョンを作成しています。

プロジェクト・メンバー 22人

グループ活動 (組織全体のビジョン策定)

プロジェクト・サブリーダー3人が各グループ・リーダーを務める。

- 1グループ > 店舗運営本部長
- 2グループ > 宅配運営本部長補佐
- 3グループ > 生活文化部長

チーム活動 (部門・分野ごとのビジョン策定)

- ・店舗事業
- ・サービス事業
- ・学校部事業
- ・人材育成戦略
- ・財務政策
- ・宅配事業
- ・保障事業
- ・組合員活動と地域社会づくり政策
- ・全体デジタル活用とインターネット政策

ビジョン策定の流れ

プロジェクトで作成したビジョンは、常勤理事会、理事会での協議修正を経て、2022年度下期に全職員へ共有される予定です、

2021年9月
プロジェクト
スタート

2022年3月
ビジョンの
最終まとめ

4月
常勤理事会へ
答申書提出

7月
理事会で
協議

2022年度下期
全職員へ
共有

プロジェクト・メンバー対談

10年後を考える

2月のプロジェクトで常勤理事会へビジョンを途中報告した後、プロジェクトに参加した職員の思いを聞きました。

2021年9月

試行錯誤の半年が始まる

尾 2022年に節目の年を迎えるにあたり、大越専務から「みやぎとふくしまの職員が参加する、ビジョン策定プロジェクトを組んでほしい。」と言われました。そこで、昔自分が参加した「中期計画策定プロジェクト」のやり方を参考に、各部からプロジェクト・メンバーを推薦してもらいました。人選では、男女、みやぎ・ふくしまのバランスに配慮し、「若手職員を中心に、仕事に対して前向きな人」という基準を設けました。

渡 私は生活文化部の國久部長から声がかかりました。初めは「すごいところに来たぞ」と思いつつ、「最年少だから言いたいことを言っちゃえ」と。選ばれた嬉しさもありましたし、皆さん優しい方なので、怖いもの知らずでどんどん発言して、積極的に取り組もうと思っていました。

神 自分は店舗運営部の櫻井部長から声がかかった時、気軽に返事をしたんですが、第1回のプロジェクトに来て「これはすごいことが始まるぞ」と。他の店舗系のメンバーは、本部長、商務、



店長なので、恐らく自分が知らない情報をたくさん持っている方々。「自分で動かないとスタートラインにも立てない」と思い、自分でも情報を集めながら必死についていきました。

深 自分は宅配運営部から「若い女性職員で誰かいないか」と相談されて、一人推薦したんですけど、最終的に「お前が行け」となって。「若くもないし、女性で

もないし…」と思っていたんですけどね。みんな自分より若いのにしっかりしていて、驚きしかありません。…こう言うと、おじさんの発言なんだろうけど。

一同（笑）。

今を多面的に見て
行動や考え方が変化

深 最初の課題で、生協の店舗や競合の店舗を見て、その違いを



理事 経理部長
未来プロジェクトリーダー
尾 尾川 輝敏



福島北センター長
深 深堀 翼

それぞれまとめたじゃないですか ※。あれ以来、お店の作りも見られるようになりました。

渡 わかります!

深 この前A&COOP角田店に行ってみて、「天井がコストコ風だな」とか。

一同 (笑)。

深 生協以外の店も含めて知らぬ間に意識するようになってますね。

尾 売り場も全然違うもんね。



A&COOP角田店

深 でも一番良かったのは職員ヒアリングです。私は宅配しか経験がないですが、店舗職員に話を聞いてみたら「生鮮品は間違いなく生協が一番ですよ!」と自信を持って話す姿を見て、「こんなに生協のことが好きで、モチベーションが高いんだ」と驚き、勇気づけられた。それからは今まで以上に生協の店を利用するようになりましたね。

神 確かに店舗では、生協の生鮮品にすごく自信を持って働いていますね。

尾 自分がヒアリングした店舗職員も、1の質問に100で返されて、それだけ生協への思いが強

く、やる気のある人をお店側で選んでくれたんだと思います。「こういう方々がみやぎ生協を支えているんだな」と感じました。

神 自分のお店の仲間からも意見を募ってみると、バンバン出るんですよ。今まで「自分はまだみやぎ生協の未来を変えられるポジションにはいない」と思っていたのですが、一般職員の意見を反映できるのが、すごくいいなと思いました。

渡 私は店舗と宅配、学校部、物流の職員にヒアリングしましたが、私がずっと持っていた問題意識も多く出され、「みんな同じことを思っていたんだな」と再認識できました。そういう声は、期待があるからこそ出てくるので、そこをクリアすれば、職員ももっと生協が好きになって、最強のみやぎ生協になるんじゃないかなと思いました。

部署を超えたグループでの交流

深 グループの話し合いでも、結構みんな遠慮せずに発言するも



生活文化部地域活動推進課
地域活動推進グループ

渡 渡邊 志歩

んね。

渡 そうですよ。グループの中でも、お互いの部署のことをあまり知らなくて、「こういう活動があればいい」という意見について、「実はうちの部署でもうやっているんです」という話になったり。横のつながりを深めていけば、もっと事業の利用や活動への参加につながるはずですよ。

神 うちのグループでは「違う事業同士がコラボしたら」という話がよく出ました。そういう発想は一つの部署では出てこなくて、みんなで話し合う中で、お互いの良さを掛け合わせたから出せたものだと思います。

渡 一人一人の課題も多かったので、進め方がわからないときにメンバー同士で電話でやり取りしたり、各自で考えたり調べたりしましたよね。

深 そこが狙いだったかもしれないですよ。チームやグループの作業に時間を取られることもありましたが、ほかの部署のことを知ることができたことは、今後の生協について考える上でも、



八幡町店 副店長

神 神蔵 諒介

※自分の近所の生協店舗、競合店2店舗の立地、内装、客層などをまとめる課題が与えられた。

今やっている仕事にも生きてくると思います。

神 自分も、生協の事業活動でもまだまだ知らないことがたくさんありますが、人にお勧めするのであれば、自分が知らないといけな。他の事業やサービスについて、より深く知っていくことから始めようと思います。

10年後への思いと 自分にできること

渡 私は、「どこでも生協の事業・活動に参加しやすい状態」が広がればいいなと。組合員活動がきっかけで加入していただいたり、組合員活動が事業の利用につながるように頑張っていきたいです。そのためにも、業務の中で全国の生協の良いところ、新しい情報を取り入れ、今あるみやぎ生協の状況を学ぶ時間をきちんと取らないとなと思いました。

深 やっぱり自分で生協の商品やサービスを利用することじゃないかな。実際に利用して、周りに広げていくのが一番説得力もあって色んな発見もありますよね。

神 入協当初は「生協はただのスーパーではない」という思いがありますが、数値目標に囚われると「ただのスーパー」になって、「組合員のため」からどんどん離れていくと感じていました。プロジェクトで「生協とは」に立



ち返ることができ、それを自分が色んな人に伝えていくことが大事だと思います。今までも生協が地域社会を引っ張ってきた部分はありますが、環境問題やLGBTQなど、「生協が先進的にやっている」ということがもっと見えるようになればいいですよ。



LGBTQ学習会(方木田店)

深 うまく言えませんが、生協を利用していることが、「俺、ベンツに乗ってるんだぜ」くらいの…。

一同 (笑)。

深 「利用していることを自慢したくなる」ような。「それやっちゃうの?」って思われるくらい一歩先

を行っていたいよね。

尾 「サステナブル」って、生協がずっと大切に組合員と取り組んできたことですが、我々は伝えることが苦手だから、数年後にはほかの企業に取って代わられる可能性もあるよね。プロジェクトの提案からは、「今までの延長線上のビジョンではいけない」という思いがしっかり伝わりました。改革には非常に苦労が伴うけど、避けてばかりだと組織は腐敗していきます。若い職員の知恵やアイデア、工夫から生まれた、世界を救うような素晴らしいビジョンも、「絵に描いた餅」では何の意味もありません。職員や組合員から出された声がみやぎ生協の中でビジョンプロとして息づいて実行するためには、自分自身も頑張らなきゃという使命感に満ち溢れています。



みんなで作る 豊かな暮らし



食品の安全・安心

いつの時代も変わらない「安全な商品を安心して利用したい」というメンバー（組合員）の願いを叶えるため、生協は設立以来、安全でより良いものを供給することを事業の重要な柱としています。

みやぎ生協・コープふくしま 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）が安心して食品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現をめざします。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

① 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。

- (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します
- (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生した時の被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
- (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。

② 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。

③ メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」の運動の輪を広めます。

④ 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。

⑤ 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。

この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

2011年4月2日 みやぎ生活協同組合

● 商品の安全対策課

■ 食品の安全マネジメントシステム

各部署で、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基づく目標と課題を立て、進捗状況を確認しています。その取り組みの有効性は、内部監査や外部検査の結果も踏まえて評価し、目標に至らない場合には原因を明らかにして対策を補強することで改善を積み重ねています。



■お申し出対応教育

2008年「中国製手作り餃子農業混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、採用時と毎年2月度に、事件の内容と教訓、信頼されるお申し出対応について職員全員が学習・確認しています。

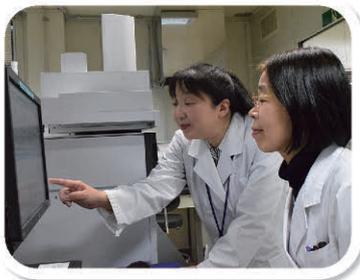
■重大商品事故管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、お申し出に対する判断や対応に誤りは無いか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。



●商品検査センター

商品検査センターでは、店舗や宅配で扱っている商品（インスタ商品含む）について、微生物検査や残留農薬検査、放射性物質検査を行っています。



メンバー（組合員）の皆様安心して商品を利用していただくために、生協の宅配や店舗で取り扱う商品の安全性を科学的に検証しています。



●2021年度 商品検査検体数一覧

微生物検査		検体数
	宅配商品	702
	店舗加工商品	1,230
	店舗一般商品	463
	COOP商品 生産部商品	565
	取り扱い前商品など	2,058
	合計	5,018

※検査結果は店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

放射性物質検査		検体数
	「めぐみ野」品、コープ東北産直	75
	古今東北	1
	アクアクララ水	6
	大豆の会	6
	一般市場品（野菜・果物）	10
	一般市場品（魚介類）	9
	合計	107

※すべて基準値内であることを確認しました。

残留農薬検査		検体数
	「めぐみ野」野菜	322
	「めぐみ野」米	14
	一般商品	14
	合計	350

※検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。
 ※めぐみ野品は栽培計画を作成し産直使用農薬を決めて栽培しています。
 （産直使用農薬：「使用を判断する4つの基準」に基づき使用できる農薬を決めています）





生産者と消費者をつなぐ

顔とくらしの見える産直「めぐみ野」

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通して、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展・食料自給率の向上に寄与しています。



● 消費者・生産者の共通の願いを実現するために

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」 3つの基準

- ① だれ(生産者)がどこ(産地)で作ったかがわかること。
- ② どのように作ったか(栽培・飼育方法)がわかること。
- ③ 生産者とみやぎ生協のメンバー(組合員)の交流があること。

私たちがめざす「めぐみ野」の未来

「産直 めぐみ野」が50周年を迎えた2020年、メンバー(組合員)、生産者、加工・流通業者、生産組織、生協職員を対象にアンケート調査を行い、2,000人を超える方から回答をいただきました。このアンケートから、「めぐみ野」を考える「安全・環境・地場・おいしさ・価格」の5つのキーワードが見えてきました。

このキーワードから「めぐみ野」の『将来のあるべき姿』『2030年にできている状態』を、冬木勝仁理事長を座長に学識経験者、生産者、流通者、メンバー(組合員)、生協職員が参加する「めぐみ野未来プロジェクト2021」で検討を進めています。

プロジェクトでまとめる「めぐみ野への提言」を「めぐみ野」にかかわるすべての人たちと共有し、活動の

質や量高め、地域でなくてはならない存在に発展させます。

50年の歴史の中で、メンバー(組合員)、生産者が交流をすすめて、互いのくらしを知り、互いの立場を思いやり、食への思いを直接結び、幾多の困難を乗り越えてきました。

これからも食の安全性を考え第一次産業を守り、地域の経済や産業に携わる皆さんと地域をよりよく変えていく活動をすすめていきます。



コープ東北
店舗商品本部 本部長

今野 一彦

●「めぐみ野」と環境保全

みんなわくわく 生き物いっぱい田んぼ



「めぐみ野」は、有機肥料の活用など、土づくりに取り組んでいます。

豊かな土は生物多様性にも貢献し、「めぐみ野」米産地である宮城県の大崎地方は、2017年、「世界農業遺産」に登録されました。田んぼを訪れる子どもたちは「どうしてこんなに生き物がいるの?」と目をキラキラさせています。

飼料用米の活用

「めぐみ野」の豚肉・鶏肉・大沼牛・鶏卵・角田丸森産牛乳・銀さけの生産には、飼料用米を加えたエサを使っています。飼料用米の生産と消費が増えることで水田が維持され、それが食料を自給する力の向上と環境保全につながります。



持続可能な養殖業と生物多様性

「めぐみ野」志津川湾産生かきの産地でもある南三陸町志津川湾戸倉海域でのかき養殖業は、2016年、日本初となる「ASC 養殖場認証※1」を取得。また志津川湾は、藻場の多様性や希少な水鳥の重要な越冬場所であることが評価され、2018年ラムサール条約※2にも登録されました。



※1国際機関であるASCにより、自然や資源保護に配慮し、安全で持続可能な養殖業を営んでいることを認める国際認証です。
※2湿地の保存に関する国際条約です。

● 生産者が作る「めぐみ野」旬菜市场



旬菜市场には「安全でおいしい野菜を食べたい」というメンバー（組合員）の願いと、「その願いに応えたい」という生産者の思いが詰まっています。生産者が規格と価格を決めて出荷し、種類が多くて鮮度も良く、生産者の自信作がそろっています。

めぐみ野農産品は生協版GAP※「安心くん」に取り組んでいます。

※GAPとは食品の安全、環境保全、労働安全、人権保護等、持続可能な農業を守る生産工程管理の取り組みのことです。

● メンバー（組合員）と生産者の交流が育む「めぐみ野」

「めぐみ野」は同じ地域・日本に暮らす者同士がお互いに交流しながら、「ともに地域をよく変えていこう、豊かな地域をつくっていこう」という事業活動・運動です。例年、季節ごとの産地見学や収穫体験のほか、店舗などでの学習会を数多く開催し、年間約8,000人がこの活動に参加していますが、2020～2021年度は新型コロナウイルスの影響で、活動を縮小しました。



「顔とくらしが見える」関係は、メンバー（組合員）にとっての安心感だけでなく、「買ってくれる人がいる」「作り続けられる」という生産者の希望にもなります。

生産者の皆さんが地域で農業や漁業、畜産業などを長く続けていくためにも、助け合う「協同」の力である「めぐみ野」の活動を大切にしていきます。

● メンバー(組合員)と生産者との交流から生まれた「牛乳タオル1本運動」



1991年 タオル一本運動贈呈式

1991年、メンバー(組合員)で構成された産直牛乳委員会が鳴子上原酪農組合を訪問したとき、牛乳をしぼる際に使うタオルの消耗が激しいことを耳にしました。

そこで、ささやかな支援として、家庭でねむっているタオルの提供を広くメンバー(組合員)に呼び掛ける「タオル1本運動」が始まりました。おいしい牛乳の生産に励んでもらうために続けているこの活動で、2021年度は6,989本、累計13万本以上のタオルを届けています。

「めぐみ野」の価値を伝え広げ、応援し続けます

半世紀以上の歴史がある「顔とくらしの産直 めぐみ野」は、メンバー(組合員)にとって、身近で、生協らしさを感じさせてくれる大切な存在です。一つひとつの商品に様々なストーリーがあり、生産者と消費者の交流があり、それぞれに栽培方法や飼育方法など特徴があります。そのような「めぐみ野」の価値を大勢のメンバー(組合員)に伝えていくことが、私たちの重要な役割です。コロナ禍で活動は制限されていますが、店頭での推奨活動や商品学習会、リモート交流会、産地見学などの機会を通じて、「めぐみ野」を応援し続けていきます。



みやぎ生協
地域代表理事

佐藤 ひで子さん

地産地消でつながる地域「ふくしま大豆の会」



生産者・加工業者・消費者が連携し、福島県産大豆を使った安全安心な(納豆・豆腐・みそ、醤油など)を作り、利用する地産地消の推進に取り組んでいます。大豆の産地では、毎年「畑の学校」という活動の中で、消費者が種まきから収穫、みそ造りまで体験して生産者などと交流しています。2021年度からは「おうちで大豆を育ててみよう」という企画を実施しました。





東北の食と産業を伝える古今東北は6周年



株式会社ヤマダフーズ様

秋田の大豆「リュウホウ」の おいしさを届けたい

甘みが特徴の秋田県産大豆を原料に、「つるうま絹豆腐」「ふくうま大粒納豆」「ふわうまひきわり納豆」を製造しています。大粒納豆は独自に開発した納豆菌を使って発酵・冷蔵熟成し、柔らかく甘みのある味に仕上がっています。この大豆の「おいしさ」を広く知っていただきたいと思っています。



旨味の詰まったしじみを 味わってほしい

青森県十三湖は海に隣接しているので、海の養分と淡水の養分がまじりあって、エサが豊富で、おいしいしじみが育ちます。「めぐみ野」にもなっているしじみを鮮度のいい状態で冷凍して宮城県女川町の工場に送り、いつでも簡単に調理できるパック商品にしてお届けしています。いつでも十三湖のしじみを味わえるのが「古今東北」商品です。



十三漁業協同組合様

● 生協以外の販路

みやぎ生協・コープふくしま以外にも販路を広げるために、子会社(株)東北協同事業開発のもとで開発される「古今東北」商品。全国の生協のほか、地域の小売店、楽天市場でのネット販売にも広がり、取り扱うアイテム数も増え続けています。



2021年11月にデビュー 6周年を迎えた古今東北ブランド。東北6県の食材や加工品を全国に発信し、販路を拡大することで復興と地域振興を後押しすることをめざしています。商品開発では、宮城学院女子大学の学生とのコラボ商品も生まれています。



及川冷蔵株式会社様

震災後に水産加工品製造に 力を入れました。

岩手県大船渡市は、世界有数の漁場をかかえ、震災前は水産冷凍原料を多く扱っていました。震災後、加工品にも力を入れていた時に「古今東北」と出会いました。「古今東北商品として納めているなら安心」と他社バイヤーにも評価され、一気に出荷量が増えました。さらに販路が広がり、本当に感謝しています。



震災後7年目でやっとできた 名産「あおさ」

古今東北ブランド立ち上げの時に、製造を始めた「寿司はね」に加え、「あおさ」も「古今東北」ブランドとして発売することになりました。震災直後は採れなかった松川浦の「あおさ」も、今は震災前の20%程度の生産量に回復してきています。丹精込めて生産しているあおさを多くの方に味わっていただき、松川浦の名産品が復活すればいいと思っています。



株式会社サンエイ海苔様



(株)東北協同事業開発
取締役 開発・営業部長

丹野 潤一

地域に貢献できるブランドを目指します

「古今東北」ブランドは、震災復興や地域経済の活性化という理念で開発された商品ブランドです。東北の生産者の方々の理解を得て多くの商品が開発され、さらに多くの販路も生まれました。東北の原料を中心に開発することで、東北の地産地消にも貢献することができます。「古今東北」は、東北の原料を使用することで、東北の商品を全国にも紹介していくプラットフォームの役割を担っていきたいと考えています。



地域コミュニティと学びの場の提供

● メンバー(組合員)が主役の地域活動

生協では、メンバー(組合員)の意見を生協の運営に反映させるだけでなく、メンバー(組合員)自身が企画・参加し、交流することで地域のコミュニティ形成につなげています。2021年度は感染症対策を徹底し、オンラインなどを取り入れて活動を続けました。

■ こ〜ぶ委員会(みやぎ)・コープ委員会(ふくしま)



地域のメンバー(組合員)が組織するコミュニティで、生協の取り組みや暮らしにかかわる様々なことを知り、学びながら、興味・関心のあることを自分たちで企画し、「楽しくてためになる」活動をしています。例年開催する「こ〜ぶのつどい(みやぎ)」「ふれあいコープ(ふくしま)」という交流活動も主催しています。



こ〜ぶのつどい(みやぎ)

■ 開かれた趣味と学びの場

コープカレッジ



専門委員会



セミナー



地域の中でさらに豊かにくらしていくための「学び」「体験」の場として、参加者同士の交流を大切にしている活動です。



興味・関心のあるテーマについて「もっと知りたい」というメンバー(組合員)のための集まりです。それぞれの分野で学んだことを、多くのメンバー(組合員)にも広げます。



調理、手芸、学習会など、暮らしを豊かに彩るための講座を文化会館ウィズ(宮城県仙台市)、アイトピア(宮城県石巻市)で行っています。

● 子育て支援

■ ココイククラブ



「ココイククラブ」は、妊娠中から15歳未満の子どもを持つメンバー(組合員)を対象にした子育て家族を支援する無料の会員サービスです。専用サイトでは離乳食レシピやおすすめ絵本など、子育てに役立つ様々な情報を公開しています。



■ すくすくばこ



宮城県の新生児の誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には趣旨に賛同した協賛企業様からの育児グッズなどが入っています。

2021年9月21日から福島県でも始まりました。



■みやぎ生協・コープふくしま “子育て応援・エールアクション”

みやぎ生協・コープふくしまでは、子育て応援事業・活動全体を「子育て応援・エールプログラム」、各部がこの計画の中で取り組む個別の事業・活動は「子育て応援・エールアクション」と呼称し、子育て世代を全力で応援しています。

2021年度からは、店舗で毎週ココイクラブメンバーデー、宅配ですくすくばこ申込者への絵本プレゼントなどを実施しています。



■子育てひろば(みやぎ) ■親子ひろば(ふくしま)



0歳～未就園児とご家族を対象としたサロン活動です。年の近いお子さんを持つ親同士で交流し、「子育てが楽しい」と思える時間になっています。また様々な親子企画をオンラインや児童館などでも実施しています。

■子どもたちの食育を すすめる活動



食育イベントを開催しています。中でも、児童向け「5 A DAY 食育体験ツアー」、園児向け「5 A DAY たべるのおはなし教室」は、参加型体験食育教室として宮城県内の小学校や幼稚園で授業として活用されています。

■コープママのWebサポートクッキング



みやぎ生協の職員で野菜ソムリエとNPO日本食育インストラクター Primaryの資格を持ち、普段食育講座や様々なイベントで活躍する「コープママ」。おうち時間が増えたご家庭を応援するため、「コープママのWebサポートクッキング」を月1～2回ほどのペースで配信しています。

Youtube チャンネルはこちら



■教育現場への支援



学校現場への支援

宮城県内の学校への講師紹介など様々な取り組みを通して、教育現場を幅広く支援しています。また、みやぎ生協の社会的活動の中で学校教育につながるものを掲載した『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』を、宮城県内のすべての小中学校へお届けしています。





安心してらせる 地域づくりのために



買い物にも安心を

● 店舗事業



買い物に困難を抱える方をサポートできるサービス・ケア・アテンダント資格者の育成や、バリアレスな店舗内装など、地域の皆さんが買い物をしやすいお店づくりをめざしています。



◀セルフレジでは、お買い物精算中、お困りのメンバーさんに対して素早く、きめ細かな接客を心がけています。



◀アクリル板やマスクによる「互いの声が聞きづらい」という問題を解消するため、サービスカウンターとレジにマイクロマイクスピーカー「Kicoeri (キコエリ)」を設置しました。

■ 地域密着型コンビニFamily Mart + COOP

みやぎ生協の子会社が運営する「Family Mart + COOP」は、地域の暮らしに役立つ店舗として、宮城県七ヶ宿町、仙台市鶴ヶ谷に2店舗営業しています。お買い物だけではなく、地域のコミュニティの場として、「昔ながらの商店」のような地域密着型のお店づくりをめざしています。



● 宅配、夕食宅配事業



高齢化が進む中、宅配事業に求められる社会貢献としての役割も大きくなっています。個人宅配時の在宅状況を、離れて暮らす親族へお知らせするメールサービスをはじめ、週に5回配達のある夕食宅配での見守り活動など、安心してご利用いただける取り組みを進めていきます。



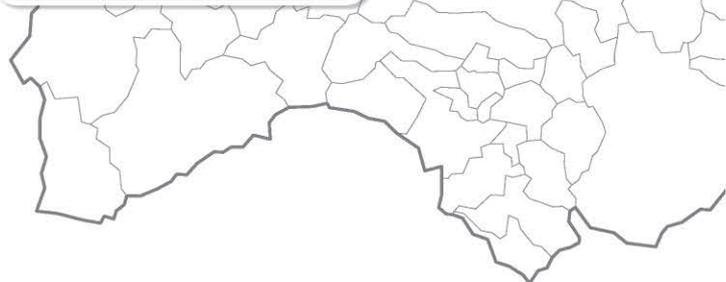
多様な買い物のかたち

● 移動店舗せいきょう便



現在、宮城県7店舗、福島県1店舗を拠点に運行しているせいきょう便。年々深刻になる買い物困難地域のニーズに対応しながら、運行台数とエリアを拡大し続けています。

運行エリア



①加賀野店

②蛇田店

③明石台店

④柳生店

⑤塩釜栄町店

⑥大河原店

⑧亘理店

⑦方木田店

稼働台数

宮城県内 13台

福島県内 1台

(2022年3月20日時点)



● 買い物代行サービスこ～ぷふれあい便



会員登録をしていただいた方を対象に、週2回、お店の商品を自宅まで届ける買い物代行サービスです。現在は宮城県内17店舗で取り組み、地域の見守り活動としても役立っています。



利用の流れ

ご注文内容の確認

店で商品を選ぶ

レジで会計

セット

積み込み

お届け・次回分注文聞き取り



社会福祉の向上

● 社会福祉法人 コーぷ福祉会



介護・福祉事業を担うコーぷ福祉会は、在宅高齢者向けの介護拠点を宮城県仙台市内の3ヶ所に設置しているほか、サービス付き高齢者向け住宅「こ～ぶなごみの杜桜ヶ丘」を開設し、高齢者の自立した生活を支援しています。また、職員の子育て応援として、事業所内保育園「コープこやぎの保育園」も仙台市に設置しています。



■ みやぎ生協桜ヶ丘店に地域包括支援センター

仙台市の委託を受け、コーぷ福祉会が運営している桜ヶ丘地域包括支援センターは、みやぎ生協桜ヶ丘店の一角にあります。お店の中にあることで、買い物ついでに気軽に寄ることができます。

● 暮らしの助け合いの会



「住みなれた地域で安心して暮らしたい」「少しの手助けがあれば自立した生活が出来るのに」という思いを抱える会員どうしの助け合い、支え合いの活動です。高齢の方、障がいのある方、子育て中の方などのために、暮らしの困りごとを、活動できる会員が有償でお手伝いしています。

活動内容例

- 室内の掃除
- 通院など外出の付き添い
- 食事作り
- 産前産後の支援
- 話し相手
- 草取りなど
- 買い物





セーフティネットとしての役割

● 暮らしと家計の相談室(生活相談・家計再生支援貸付事業)



家計見直しのアドバイスや、金融機関からの借り入れができない場合の生活資金のご相談など、お金に関する様々なご相談をお受けしています。相談内容に応じて、公的支援や法的制度をご案内し、生協独自の貸付支援も検討します。また、宮城県および仙台市の委託を受け、「生活困窮者自立支援制度家計改善支援事業」の窓口として地域社会に貢献しています。



● こども食堂の支援



子どもたちの「孤食」を防ぎ、地域の居場所として、無料または低価格で子どもたちに食事を提供する「こども食堂」。宮城県・福島県各地の民間団体と連携し、店舗の集会室・調理室などを提供しながら、子どもや地域の方々も含めた交流の場づくりを応援しています。

また、「みやぎこども食堂ネットワーク」へ協力し、県内に点在するこども食堂間の情報共有、寄贈された食品の活用など、支援の循環につなげています。



● コープフードバンク



お取引先様などから余剰食品の無償提供を受け、社会福祉団体などに無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してらせる地域づくりをめざしています。

提供先団体・施設数





自治体・民間団体との連携

● 民間団体への支援

■ みやぎ生協福祉活動助成金



地域福祉の向上をめざし、福祉活動に関わる地域活動や研究活動を支援する事業に、毎年2回、総額1,000万円を上限に助成金を贈呈しています。贈呈式には助成団体が集まるため、分野を超えた団体の交流の場にもなっています。



2021年度上期 助成団体 (14 団体)

- 一般財団法人メンタルケア協会 宮城事務所
- おやこの輪
- 宮城めぐみ韓日交流クラブ
- NPO法人ケアブレンド
- 仙台若林子ども劇場
- 骨髄バンク・つなぐ
- 特定非営利活動法人セイブアライフ
- わたりキッズわくわくプロジェクト
- いずみワクワク食堂
- フードバンク仙台
- トナリのほいくし
- こども哲学tera-s
- むすびめ
- 障がい者サポーターズGolazo!

2021年度下期 助成団体 (18 団体)

- 一般社団法人Hito Reha
- NPO法人うみとそら
- しおかぜホーム
- 宮城めぐみ韓日交流クラブ
- 気仙沼・南三陸地区住民の健康を支える会
- 一般社団法人かもみ〜る
- 親子の居場所Clover
- あせび会
- 障がい者サポーターズGolazo!
- 一般社団法人スタンドアップ巨理
- 一般社団法人プレーワーカーズ
- 買物付添い支援「わだちの会」
- 桜会
- 東北大学インクストーンズ
- 一般社団法人ReRoots
- 一般社団法人sc.field
- ふとうこうカフェinせんだいみやぎ
- けせんぬま森のおさんぽ会

■ COOPトリプルカード みやぎスマイル基金



みやぎ生協(株)日専連ライフサービス様が社会貢献を目的に協力して始まった「みやぎスマイル基金」。COOPトリプルカードでの決済1回につき1円を1年間積み立て、年に1度、社会貢献のために活動している組織・団体へ助成しています。

(※2022年度からは目的・対象が変更になります)



コープトリプルカード

みやぎ生協、日専連加盟店、JCB加盟店で利用できるクレジットカードです。

2021年度 助成団体 (11 団体)

- 特定非営利活動法人アクティブ
- いしのまぎリサイクリーション研究会
- 特定非営利活動法人エムケイベース
- 特定非営利活動法人スマイルシード
- 特定非営利活動法人空飛ぶくぢらの会
- 東北大学たなぼた
- 一般社団法人とおがったプロジェクト
- にじいるCANVAS
- 特定非営利活動法人 学びの庭 就労支援センター ジェムストーン
- 宮城野子ども食堂
- 特定非営利活動法人 麦の会

● 自治体等との連携

■ 包括連携協定



宮城県内の自治体と包括連携協定を締結しています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」に向け、これからも幅広い分野で連携していきます。

協定締結自治体一覧

宮城県10市町(2022年4月末時点)

- 宮城県 ●東松島市 ●石巻市 ●七ヶ宿町 ●塩釜市
- 大崎市 ●富谷市 ●仙台市 ●白石市 ●利府町
- 栗原市

■ 高齢者見守り協定



宅配サービスでは、配達時にいつもと違う状況に気付いた場合に行政窓口へ連絡し、安否を確認しています。宅配の強みを活かし、これからも地域貢献の輪を広げていきます。



2021年度メンバー（組員）異変発見件数

宅配	24
夕食宅配	17
配達灯油	1
ふれあい便	22
計	64

■ 首長・議員懇談会



宮城県大和町

宮城県・福島県の首長や宮城県議・仙台市議と、メンバー（組員）との懇談会を年に1回行っています。「誰もが安心してくらせる地域づくり」というテーマで、生協と行政それぞれの取り組みについて情報交換し、メンバー（組員）からは地域住民としての率直な意見を直接行政に伝える貴重な機会になっています。



宮城県利府町



福島県白河市

参加者・地域代表理事の声

- 町の現状を知ることができて良かったです。来年も参加したいと思います。
- 新しい市長が就任されたので期待しながら参加しました。参加者からも様々な意見が出て有意義な時間でした。

- 堅苦しくなく和気あいあいとした雰囲気でした。質問などにもわかりやすく説明してもらいました。
- 初めての懇談会で「すくすくばこ」の取り組みについて良い評価してもらいました。懇談会后、市役所にチラシを届けました。





公正で人にやさしい 組織づくりのために



働きやすさとダイバーシティ

みやぎ生協・コープふくしまでは、さまざまな雇用形態、ライフステージの人々が働き続けられる組織をめざし、多様な人材が活躍できる仕組みづくり、コミュニケーションの活発化に努めています。

● サークル活動支援制度

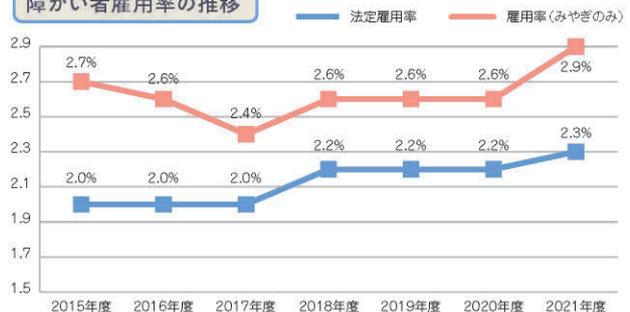
スポーツや趣味を通じて、部署・事業所の枠を超えたコミュニケーションを促すための支援制度。活動内容や活動計画などを申請してサークルとして認められれば、活動費用の一部を生協が支援しています。現在は26のサークルが登録されています。



● 障がい者雇用

現在、みやぎ・ふくしま合わせて119人の障がい者が店舗を中心とした事業所で働いています。それぞれの特性や能力を活かせるよう、周囲の職員や労政部が力を合わせ、何かしらの制約がある人も働ける環境を作っています。受け入れる職員の理解と配慮の工夫も広がり、みやぎ生協への就労希望者は増えてきています。

障がい者雇用率の推移



● 育児・出産・介護休業

みやぎ生協・コープふくしまでは、職員が出産後や、育児・介護の最中でも働き続けられるよう、法定基準以上の制度を整備し、ポスター等で周知しています。また、労政部職員が個別の相談に応じています。

■ 出産・育児支援制度

制度名	内容	2021年度利用人数
妊娠時短	1日1時間取得可能。	9人
育児休業	子どもが満3歳になるまで取得可能。	66人
育児時短	子どもが小学校3年生の終了まで取得可能（労働時間短縮）。	27人
子の看護休暇	小学校就学前までの第1子の場合は年間5日、2子以上の場合は年間10日、1日単位で取得可能。	10人
配偶者出産休暇	通算2日以内で取得可能。	3人

■ 介護支援制度

制度名	内容	2021年度利用人数
介護休業	対象家族1人につき通算1年取得可能（アルバイトは法定の通算93日間）。	19人
介護休暇	対象家族が1人の場合は年間5日間、2人以上の場合は年間10日間、1日単位で取得可能。	27人
介護時短	労働時間短縮	4人

● リハビリ勤務制度

メンタル不調で休職した職員がスムーズに復職できるように、産業医、健康管理室、労政部が協力して支援する制度があり、復職後の就労支援を行います。

また、がんや難病と仕事を両立するために、該当部署、健康管理室、労政部が協力して支援しています。

誇りと展望が持てる風土づくり

● しごと報告カード

「しごと報告カード」は、仕事の中で発見したこと、改善のために実行したことなどを記入して提出するものです。優れた「しごと報告カード」を半期に一度表彰します。

また、「しごと報告カード」で業務改善につながる提案も集め、さらなる生産性向上や、働きやすい職場環境づくりをめざしています。



地球とエネルギーの 未来のために



環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目を柱にメンバー（組合員）とともに取り組みます。

- ① 生協事業におけるCO₂の総排出量削減
- ② 事業からの廃棄物の削減・再資源化
- ③ 環境に配慮した地域社会の構築
- ④ 商品事業における環境配慮



循環型社会の構築～3R～

● メンバー（組合員）からの資源回収



店舗にリサイクルボックスを設置し、古紙や牛乳パック、プラスチック容器などを回収しているほか、自治体の事業に協力し、小型家電や使用済み食用油の回収ボックスを設置している店舗もあります。



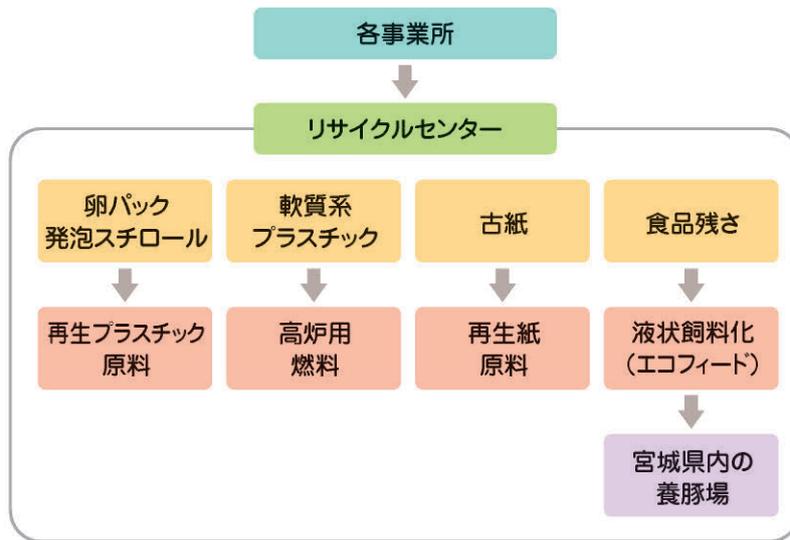
● みやぎ生協リサイクルセンター



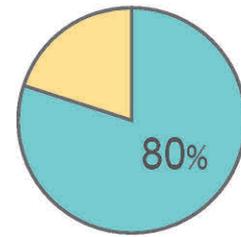
エコフィード製造機

みやぎ生協では、メンバー（組合員）からだけではなく、事業所からも廃棄物を集め、自ら分別、収集、再資源化しています。紙類やプラスチック類のほか、店舗の農産・惣菜部門で発生した食品残さも集めており、エコフィード化※して県内の養豚場に出荷しています。これにより、高い食品リサイクル率を維持しています。

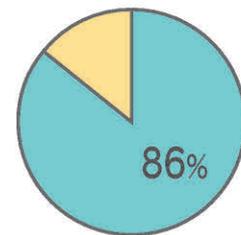
※乳酸発酵による液状飼料化



事業系廃棄物のリサイクル率

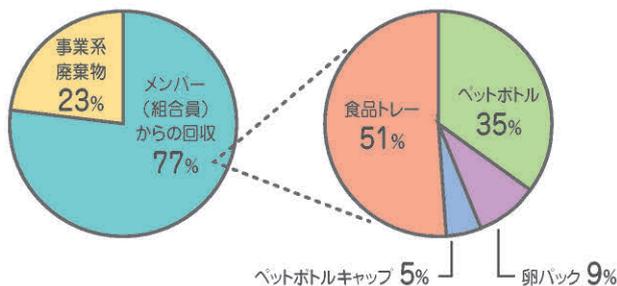


食品リサイクル率



■プラスチック資源 100%リサイクル

回収したプラスチック系廃棄物内訳(重量)



みやぎ生協・コープふくしまはレジ袋の有料化に取り組むほか、メンバー(組合員)や事業所から集められたプラスチックごみのリサイクルに取り組んでいます。回収したプラスチックごみは、再生プラスチック素材や高炉用燃料として、100%再利用されています。

2030年目標

「CO₂排出量 65%削減」

2030年までのCO₂排出量削減目標として、みやぎ生協・コープふくしまは、国の基準である「2013年比40%」より厳しい「2013年比65%」を目指しています。

具体的には、地球温暖化係数(※₁)のきわめて低い自然冷媒(CO₂冷媒)を使った冷凍・冷蔵設備の導入、電気自動車やBDF(※₂)車両の導入、再生可能エネルギー電力比率の高い電力への切り替えなどに取り組んでいます。こうした工夫により、2020年度末時点で、「2013年比60%削減」に到達しています。

CO₂排出量 (t-CO₂)



※₁大気中に放出されたときに、一定時間内に地球に与える温暖化への影響の比率。

※₂使用済み食用油を原料にした軽油の代替燃料。Bio Diesel Fuelの略。



再生可能エネルギーの普及拡大

再生可能エネルギー発電への投資



太陽光発電設備、廃食油を燃料としたSVO (Straight vegetable oil) コージェネレーション発電機を店舗、宅配センター、本部へ設置しています。また、秋田県の風力発電事業や岩手県野田木質バイオマス発電事業などへ出資参画し、東北各地での再生可能エネルギー事業の拡大に努めています。

■羽川風力発電



ソーラーシェアリング発電所への投資

■福島市岡島ソーラーシェアリング



福島県福島市岡島地区でブドウを栽培している長谷川農園さんの農地にソーラーパネルを設置し、売電収入の一部を信達青果生産出荷組合連合会に寄付しています。

■二本松営農ソーラー



(株)ゴチカン、ISEPと協力し、福島県二本松市の耕作放棄地をブドウやエゴマなどの農地に変え、その上に約6万㎡のソーラーパネルを設置しました。電気はみやぎ生協が購入する予定です。

みらいとくらしにやさしい COCOENE(ココエネ)



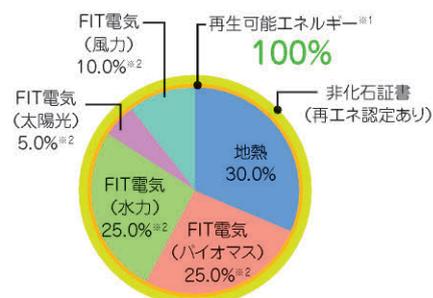
太陽光、風力、水力、バイオマスの自然エネルギーにより発電されたFIT電気・再生可能エネルギーの比率が100%(2021年度計画値)の「ソフトでんき」の販売を実施します。

自然のエネルギーで発電された再生可能エネルギーの利用を広げることで、再生可能エネルギー発電の拡大、エネルギー自給率向上などに寄与します。

(※1)FIT電気を含みます。(※2参照)

(※2)この電気を調達する費用の一部は、当社以外のお客様も含めて電気の利用者が負担する賦課金によって賄われており、当社が販売するFIT電気は、CO₂排出量について、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO₂排出量をもった電気として扱われます。

ソフトでんき電源構成 (2021年度計画値)



共同事業 「地域連携・低炭素水素技術実証事業」

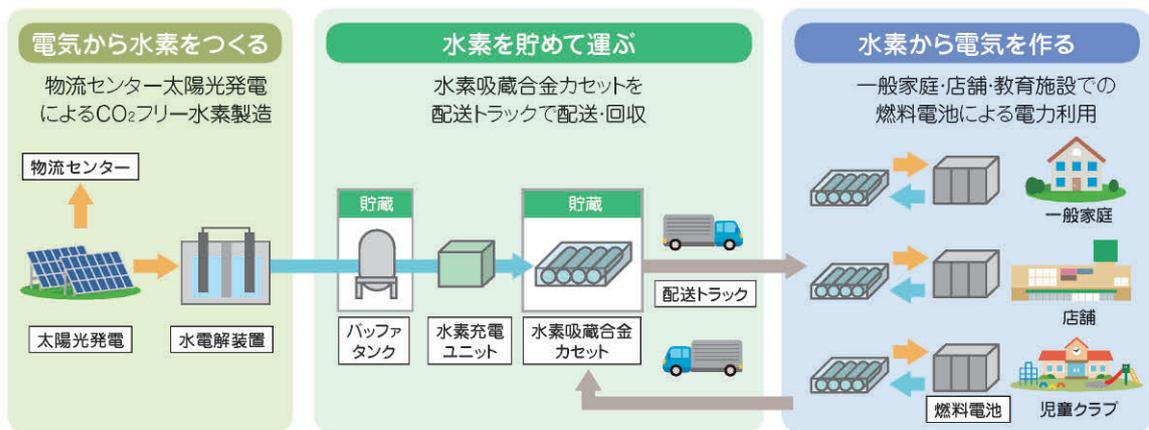


環境省が進める「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の一環として、水素エネルギーを活用するサプライチェーンを構築する実証事業に参画しています。2017年に宮城県富谷市で実証実験を始め、そこで培われたデータを活用し、福島県浪江町で社会実装に向けた取り組みが2021年度に始まりました。

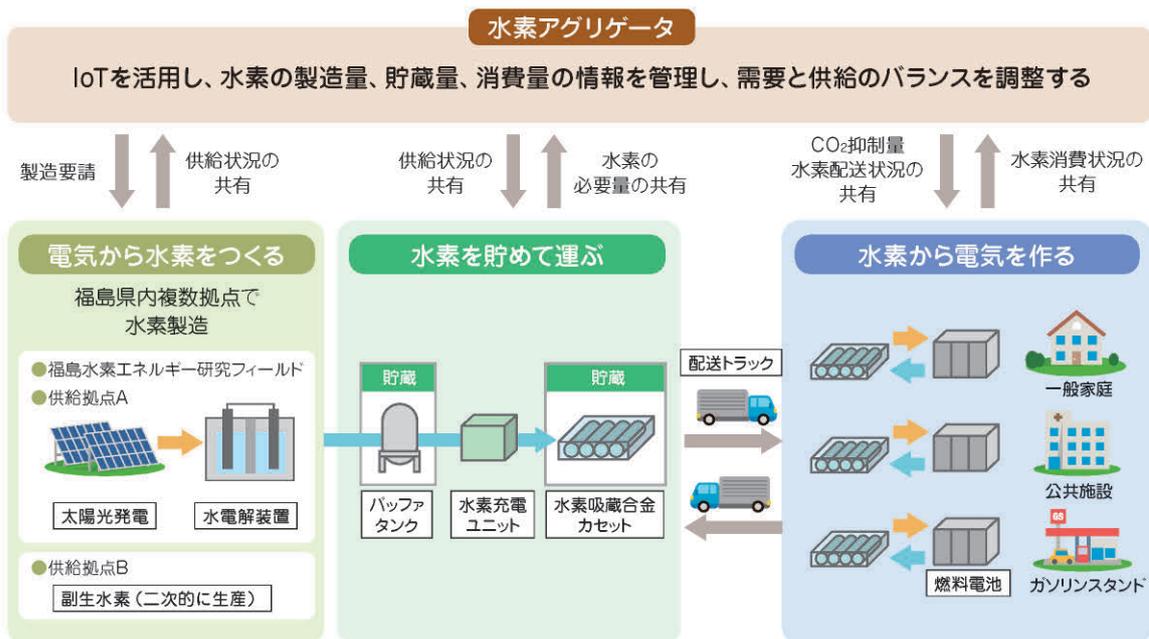
事業参画者

- 株式会社 日立製作所
- 丸紅 株式会社
- みやぎ生協
- 富谷市または浪江町

■Step1 安全性を含む技術実証 (宮城県富谷市)



■Step2 水素サプライチェーンの社会実装 (福島県浪江町)



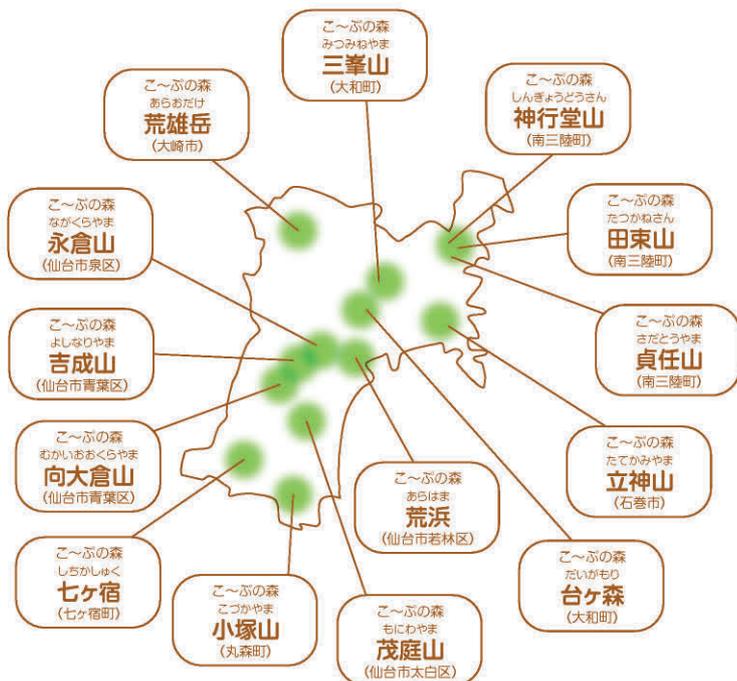


メンバー(組合員)と進める環境活動

● こ～ぶの森



宮城県内の緑と自然を豊かにするために始まった「こ～ぶの森」の活動。アルミ缶や廃食用油回収の売却益や「COOP緑の基金」に寄せられた募金を活用し、植林や下草刈などに取り組んでいます。また、メンバー(組合員)が参加できる活動として、春の植林体験会、秋の観察会などが開かれます。



こ～ぶの森は宮城県内14ヶ所に広がっています。



こ～ぶの森協賛企業様からの募金贈呈式



秋の森観察会



平和な社会の 実現を目指して



平和な国際社会に向けて

生協は、商品を通じた国際貢献や開発途上国の子どもたちを支援するユニセフの活動を支援しています。また、原爆や戦争の悲惨さに目を向け、平和の大切さについて考える活動も続けています。

● メンバー(組合員)による国際貢献

■ コープ商品を通じた貢献

CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

「コアノンロール」や「ワンタッチ芯までロール」を1パックお買い上げいただくごとに1円がアンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」に寄付されます。



CO・OP×レッドカップキャンペーン

キャンペーン期間内に対象のコープ商品を1点お買い上げいただくごとに1円が国連WFP(世界食糧計画)に寄付されます。寄付金は、毎年指定された開発途上国の「学校給食プログラム」に役立てられます。



■ ユニセフ 募金活動

店舗での募金箱やレジ募金、宅配注文書からの募金などを通じて、メンバー(組合員)とともにユニセフを支援しています。

2021年度 ユニセフ募金額

一般募金(みやぎ+ふくしま)	6,501,064円
紙パック回収による募金	2,451,240円
ペットボトルキャップ回収による募金	56,700円
自然災害緊急募金	500,000円
合計	9,509,004円

● 平和を守る活動

■ 「ピースアクション2021INみやぎ」～若い世代への平和の継承と核兵器廃絶～を開催しました。



仙台白百合学園高校英語部の平和の取り組みや、広島市立基町高校美術部による「原爆の絵」の展示のほか、丸善書店様(仙台アエル店)と協賛して「平和の絵本」を展示しました。

みやぎ生協では「平和七夕」「折鶴アート」「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める意義学習会」「高校に沖縄の文化や歴史、沖縄戦や基地問題について学べる資料・DVDの寄贈」の様子を展示しました。多くの方が参加し、高校生の発表や「原爆の絵」に見入っていました。



ガバナンスと概況



経営体制と意思決定

● 最高議決機関 総代会



みやぎ生協・コープふくしまでは、メンバー（組合員）の中から選ばれた「総代」による「総代会」で毎年の方針・事業計画などが決定されます。総代は、事業地域を基にした地域区と学校部職域区（宮城県のみ）の選挙区から選挙で選ばれます。

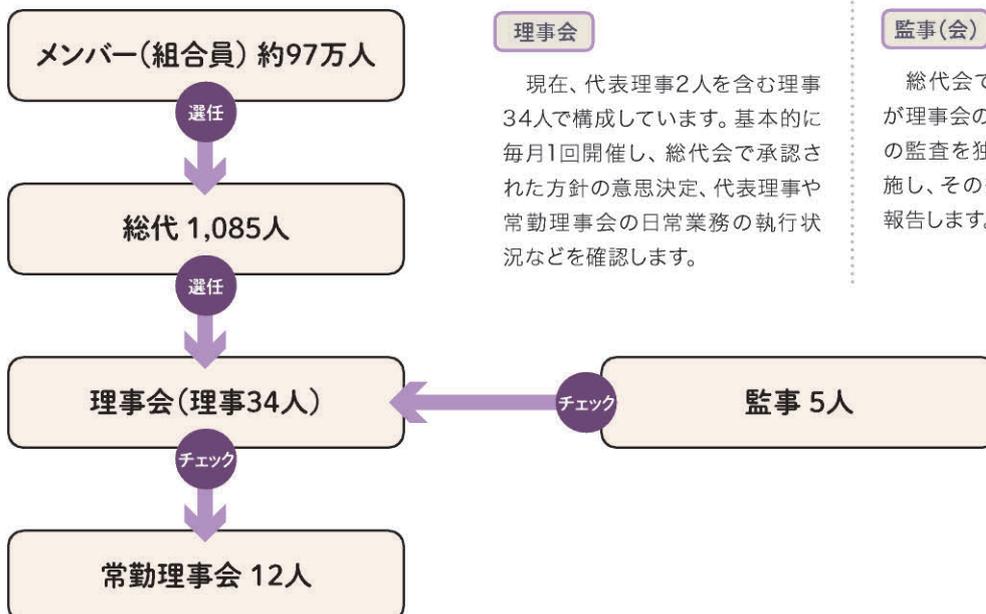
第41回（2022年）総代会 選挙区別 総代定数

	選挙区数	メンバー（組合員）数	総代定数
宮城県地域区	59	695,302人	839人
宮城県学校部職域区	8	8,991人	12人
福島県地域区	12	191,873人	234人
合計	79	896,166人※	1,085人

※選出基準組合員数は、2021年12月20日現在の組合員数から住所不明及び未登録組合員数を除いた数です。

● 業務執行体制

日常的には各役員・本部長・部長が責任を持って、総代会の決定に基づき業務を執行します。また、監事は理事の職務の執行と会計監査などを行っています。



理事会

現在、代表理事2人を含む理事34人で構成しています。基本的に毎月1回開催し、総代会で承認された方針の意思決定、代表理事や常勤理事会の日常業務の執行状況などを確認します。

監事(会)

総代会で選出された監事5人が理事会の業務執行状況や会計の監査を独立した機関として実施し、その結果を毎年総代会に報告します。

2019年 3生協が組織合同 (みやぎ生協・コープふくしま・福島県南生協)

● 組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。

組織合同による目的は次の4つです。

- ① 事業革新とコスト構造改革
- ② スケールを生かした事業効率化
- ③ 福島県内での事業・組織率拡大
- ④ 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）のくらしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。



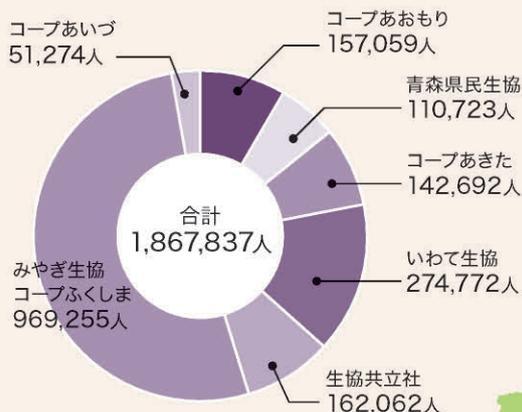
生活協同組合連合会 コープ東北サンネット事業連合

1995年にいわて生協、生協共立社、みやぎ生協が設立した事業連合で、商品仕入れを共同で行うことにより、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在は、東北6県7生協が加盟し、店舗事業、宅配事業、食品の安全安心、物流、システムなどの分野で統一・共同が進んでいます。（通称：コープ東北）

■ コープ東北のデータ

- 代表
代表理事 理事長 倉田秀昭
- 本部所在地
宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2
- 設立
1995年5月12日
- 会員数
東北6県7生協
- 供給高（会員生協への供給）
1,300億18百万円

● 会員生協の組合員数 (2022年3月20日時点)



● 内部統制

みやぎ生協・コープふくしまでは、ステークホルダーとの協同・連帯を大切にしながら、業務の効率性、提供する商品やサービスの質の向上に努めています。

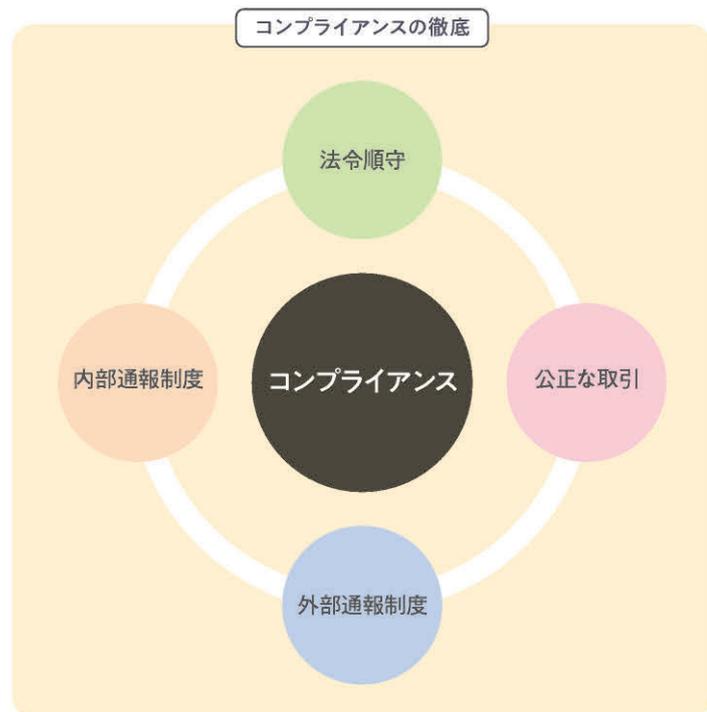
■ 内部統制システム整備 基本方針

みやぎ生協・コープふくしまは、内部統制システム整備に関わる基本方針を定め、7つの体制の整備を進めています。これにより、内部統制の4つの目的である、「事業活動に関わるコンプライアンスの徹底」「職務の有効性と効率性」「財務報告の信頼性の確保」「資産の保全」の達成をめざして取り組んでいます。

7つの内部統制体制

- 1 コンプライアンス体制
- 2 情報管理体制
- 3 リスク管理体制
- 4 効率性確保体制
- 5 子会社などの管理体制
- 6 監事監査確保体制
- 7 監事への報告体制

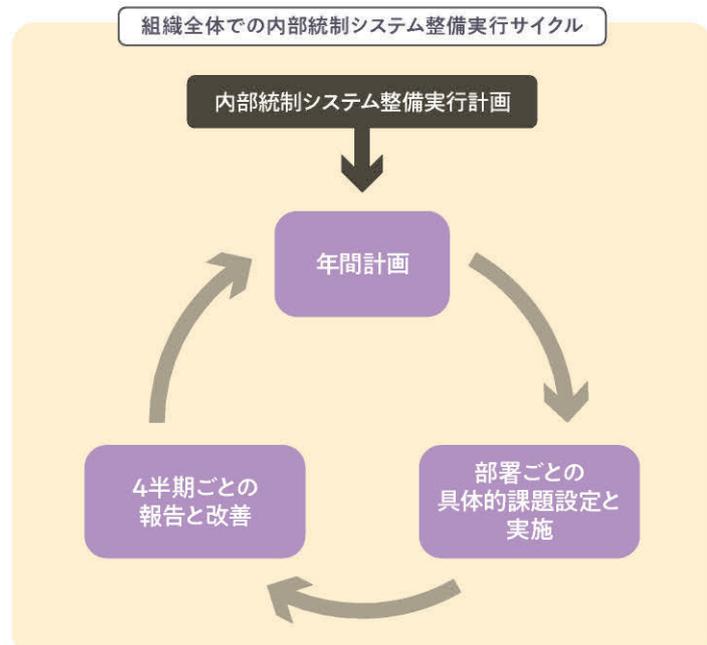
コンプライアンス…
生協の健全かつ適正な業務運営



日常的な実行計画

みやぎ生協・コープふくしまでは、上記基本方針にもとづき、毎年「内部統制システム整備実行計画」を策定しています。年間の共通重点課題を設定するとともに、各部に内在するリスクを評価し、年間を通して継続してリスク管理に取り組んでおり、四半期に一度、課題の進捗状況を確認しています。

また日常的に各部でモニタリングを行い、リスク管理が適切に行われているか検証するとともに、独立した立場から内部監査担当による内部監査を実施しています。



● みやぎ生協・コープふくしまの概況

(数字は2022年3月20日時点)

名称 みやぎ生活協同組合 **設立** 1982年3月21日

本部所在地 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

メンバー(組合員)数 969,255人

供給高

供給高	
● うち店舗事業	834億8,962万円
● うち宅配事業	461億8,103万円
● うちサービス事業	20億4,512万円
● うちエネルギー事業	49億2,660万円

(100万円未満は切り捨て)

店舗・宅配事業所数

	みやぎ	ふくしま
店舗	51	12
● うち直営SM型	47	12
● うちA&COOP (農協と共同運営)	2	0
● うちコンビニ型	2	0
宅配センター	11	6

職員数

(2022年3月21日時点)

レギュラー職員	1,307
エリア職員	288
嘱託職員	418
パートナー職員	4,212
アルバイト職員	1,725
計	7,950

経営概況

ホームページに
掲載しています。



子会社・関係団体一覧

法人名	主な事業内容
(株)宮城県学校用品協会	学校用品販売・アフタースクール事業・宅配水・コインランドリー
(株)コープエステート	不動産賃貸
(株)スクラムファイブ	ベーカリー
(株)コープストア	A & COOPの経営
(株)東北協同事業開発	「古今東北」ブランドの商品開発・卸売 医薬品販売、タブレット販売、他社との共同仕入れ
(株)コープコンビニエンス	FamilyMart + COOPの経営
(有)コープフーズ	納豆・豆腐・油揚げ・こんにゃくの製造・供給
社会福祉法人 ころぷ福社会	高齢者福祉・介護事業、保育園事業



みやぎ生協・コープふくしま

サステナビリティ レポート 2022

～持続可能な社会のための活動報告書～

発行日 2022年5月14日

発行 みやぎ生活協同組合 〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2

お問合せ先

- 機関運営部 TEL.022-771-1590 FAX.022-773-1821
- 環境活動に関する詳細は環境管理室 TEL.022-771-2461

HPアドレス

みやぎ生活協同組合 <https://www.miyagi.coop/>
本報告書はホームページにて掲載、ダウンロードできます。



このパンフレットは水なし印刷で印刷し、カーボンオフセットしています。
CO₂排出量は、1部あたり390gでJWPAとCFCを通じてカーボンオフセットしました。

